令和５年度　函館あおい認定こども園　自己評価・学校関係者評価表（10 段階評価）

評価分類	評定	内　　容
保育の計画性	8.5	園の教育理念や教育・保育方針を理解している。
	8.8	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	7.7	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	7.8	指導・保育計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	8.9	保育教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	7.8	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	7.9	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	7.7	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかなどを常に観察している。
	7.9	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	8.0	個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる。
	8.9	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	8.9	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉がけや対応をしている。
	8.4	クラスの環境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	8.5	幼児のことについて、常に保育教諭同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
資質・能力・良識・適性	8.6	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	8.5	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	9.5	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	7.5	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.4	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	8.4	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内　　容
保護者への対応	8.5	個々の子どもの様子は直接話を行い、電話・連絡帳などを使って伝え合っている。
	8.4	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの保育要素・教育的な意義付けを、はっきりとさせてからにしている。
	8.2	自分の考えをきちんと話し、保護者の話に心を開いてよく聞く。
研修と研究	7.5	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	7.6	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	7.5	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

～学級経営反省点～

【幼稚部】

●進級を喜び、気持ちの切り替えなども意識できていたが、少しずつその気持ちが薄れてしまい、周囲の雰囲気につられてしまう子が多く、まとまりのない場面が多々あった。（６年目：保育教諭）

●楽しい気持ちや感情の高まりで、相手に嫌なことをしてしまう件が多くあった。その都度話し合いをしながらすすめたが、そうなる前にもう少し気持ちを落ち着けられなかったか、日々子どもたちに友達を大切にするという事を伝えられていたのかと振り返った。クラスでしっかりと話し合い、みんなで考える時間を設ける事で子どもたちも考える時間ができた。(６年目：保育教諭)

●隣のクラスと同じ活動を行う際に、細かな部分や最後までの確認が自分自身甘く、思い違いをすることがあった。反省を活かし、再確認を心がけるようになってからは、同じ失敗をすることがなくなった。（４年目：保育教諭）

●自分のことは自分で出来るような促しをすすめていたが、基本的生活習慣が身についた後に、子どもたちのできた喜びを一緒に味わい嬉しい気持ちを引き出すことが初めだけになってしまい、持続が難しかった。（３年目：保育教諭）

●様々な行事や日々の生活の中で、子どもたちの興味や関心を引き出しながら保育をすすめるべき時に、自分自身が学年やクラスの事で一人ひとりと、ゆっくりかかわれる時間が少なかったと思い反省してしる。（３年目：保育教諭）

●子どもたちには自分の考えを言葉にして伝えることが出来るよう、言葉がけや援助を行っていたが、言葉にすることが難しく保育者に声を掛けられるまで待つ姿や、不機嫌になりそのまま活動に参加できない子の姿も見られていた。その際に気持ちを自然に切り替えられるような促しや言葉が充分に持てていなかったと反省している。（３年目：保育教諭）

●今年度は昨年度よりも保護者とのコミュニケーションを大切に過ごそうと課題をもっていた。しかしそのような中で、自分自身伝えたいことが上手くまとまらない事や、早口で伝えてしまう場面が多々あったので、今後は信頼関係を深めていけるような会話や内容を心がけ、落ち着いて話ができるようになりたいと思う。細やかな連絡も心がけ、安心した気持ちで園に預けていただけるような関係を築いていきたい。（３年目：保育教諭）

●年中児に進級し、心の成長が大きく見えてくることと同時に、友達同士のやりとりの中で言葉の選び方や思いの伝え方でどうしてもトラブルになることが多かった。このような経験も成長の上で必要な事ではあるが、揉めてしまってからの対応になることがあり、もう少し子どもたちのかかわりの、事前の状況を注意深く見ておく必要があったと感じた。（８年目：保育教諭）

【保育部】

- ４月当初の様子として、どうしても言葉よりも先に手や行動が出てしまい、揉め事やケガに発展することが多かった子どもたちに対し、毎日その都度「言葉で伝え続ける事」を重ねてきた。出来た時には「必ず褒める事」を意識したことで、「ありがとう」や「貸して」「ごめんね」「後でならいいよ」など、友達とかかわる中で大切な言葉を自然と言えるようになったことが、大きな成長部分だと思う。（８年目：保育教諭）
- ２歳児は言葉だけでは伝わりにくい年齢のため、遊びを通して身に付けられたことも多く、「順番を守って遊ぶ」「真っ直ぐに追い越さず歩く」など、少しのルールの工夫で楽しみながら学ぶ事ができていたと思う。だからこそ、日々の遊びの中でどのようなルールを設定し、言葉がけや伝え方を丁寧に考える大切さを改めて感じた。（８年目：保育教諭）
- 個々の生活リズムや成長に合わせてかかわることがとても大切な０歳児という学年で、食事の事や健康状態など保護者から伺い、職員間で共有する事がとても大事だと改めて感じた。特に、シフト制で働く職員間の連携や共通理解の方法はとても難しいものがあるが、少しずつやり方の工夫や連携の他の方法がないか等、考えることもできた。（４年目：保育教諭）
- 初めて３号認定児の保育にあたった。乳幼児は特に月齢の差や、個々の発達の面でも差が大きく、一人ひとりの出来る事や食べられるものの違い、その子に合わせた援助のすすめ方が難しく、日々子どもたちから多くの事を学ばせてもらったと感じている。勉強不足の部分も多々あったので、今年度の経験も活かし頑張っていきたいと思う。（３年目：保育教諭）
- クラス活動でも、保育者同士声を掛け合いながら、時には人数を分けたり、集団で活動したりと臨機応変に状況に応じて活動出来る事が増えてきたと感じています。（５年目：保育教諭）
- ２号認定児の中で、異年齢児のかかわりを深めるという点では、年中・年長として、集団で過ごすことは割と出来たと感じているが、年少とのかかわりの時間が少なかった。担当の先生方とももう少し活動の予定の連絡を密に取り合い、すすめられるとよかったと感じる。（３年目：保育教諭）
- 年少児のクラスを初めて担当させていただき、様々な事が初めてな子どもたちのため、基本的な事を身に付けるためのための言葉がけや、援助の仕方がとても大切であることを改めて感じた。また、主担任が保育をすすめやすいように、サポート側として子どもたちとの距離を少しずつ縮めながら援助を行ってきた。上手くいかない日も多々あったが、諦めずに毎日かかわりを深めていくことを意識した。そのような中で信頼関係に深まりが増し、徐々に様々な場面でも子どもたちに変化が現れ、みんなと一緒の事が出来る事を喜べるようになり、クラスにまとまりも感じるようになった。（14 年目：保育教諭）
- ２号認定児は保育時間も長く、心の面を見ながらの保育を心がけ、家庭での様子などにも視点をあてて考えながら過ごす事を意識することが出来た。しかしながら、午後の遊びの内容の工夫がもう少し必要だと感じていた。他学年の２号認定児とのかかわりや、一緒に出来る事はないか、各担任とも話し合いを増やして楽しい活動をすすめていけるように来年度は保育を組み立てていけるようにしたいと思う。（３年目：保育教諭）
- 子どもたちの「やってみたい」という興味やアイデアを保育の中からたくさん引き出し、遊びを豊かにするための工夫をもう少し努力できるとよかったと感じている。子どもたちの今の姿や育ちの姿をしっかりと自分自身捉え、保育士同士の連携も深めていけるようなすすめ方や、環境設定の工夫をするべきであった。（５年目：保育教諭）
- 援助を個別にすすめている子どもたちへの、一人ひとりの特性を自分がしっかり捉えられているかという事に悩んだことがあった。サポートの先生と一緒にかかわり方など、発達段階や特性に合わせた配慮を一からすすめ直してみようと考えた。クラス全体の共通の援助として「見通しをもてる、視覚を用いた援助」を心がけ、保育を行う意識をした。どの園児にも指示が通りやすく、みんなが分かりやすくすすめられたという事も知ることが出来、自分自身としてもよかった。（２年目：保育教諭）
- どうしてもクラス活動する上で、援助を個別にすすめている子どもたちへの対応ばかりを見てしまい、クラス全体としてまとまった保育が上手くすすめられなかったという事が反省される。個々のその日の状態も大きくかかわっているが、サポートの先生と連携を上手にすすめ、集団での動きの大切さも伝えていくことが出来ればと感じている。（２年目：保育教諭）

【今後取り組みたい課題】

●様々な種類の遊びが出来るような、環境設定を行いたい。また、こどもたちが「自分から」何事にも取り組めるような意欲を引き出せるような言葉がけを積極的に行い、成長を促していきたい。（８年目：保育教諭）
●あまり出来なかった廃材遊びやクラスでのごっこ遊びの環境を意識し、子どもたちの発想やアイデアを存分に表現出来る場所を作っていきたい。（４年目：保育教諭）
●自然環境と触れ合える時間を増やすことを課題として、来年度は取り組んでみたい。（３年目：保育教諭）
●様々な特性をもつ子どもたちがいる中で、クラス全体での指示の理解を深めるためにも、普段から視覚を用いた援助や見える化しを意識した保育を年齢児問わず取り入れていきたいと思う。（８年目：保育教諭）
●子どもたちだけではなく、周囲の職員や新人育成にも目を向け、円滑に保育や業務がすすめられるような立ち位置で自分の力が発揮できるよう頑張りたい。（８年目：保育教諭）
●自分のクラスだけではなく、他のクラスとの連携を充分に図りながら、異年齢児でのかかわりも密に取れるような保育をすすめていきたい。（３年目：保育教諭）
●季節感が味わえるような活動をたくさん取り入れていき、わくわくするような活動をたくさん行いたい。（５年目：保育教諭）
●２号認定児は一日が長いということもあり、特に幼稚部が長期休暇（夏休み等）に入った際の課題が多くありました。子どもたちの過ごし方はもちろんのことですが、人員配置についても工夫が必要だと感じた。時間が長いので、一日の生活の中でメリハリをつけて過ごせるような保育をすすめていきたい。（３年目：保育教諭）
●配慮が必要な子への対応として、全体的な視覚の援助は行えたが、個々の援助として追求する時間が足りなかった。次年度は今回の経験を活かしてすすめていきたい。（２年目：保育教諭）
●学年を超えた職員間の連携を密にし、何事にも協力し合いながら仕事に向き合うという姿勢を、自分の経験を通したものと一緒に伝えていきたい。（14 年目：保育教諭）

【学校関係者からの評価】

●自己評価表にあるように、教職員のチームワークの良さはいつも感じています。皆さん一丸となって、子どもたちを見守ってくださり、日々感謝しています。

●自己評価では「園児とのかかわりでの反省点」がたくさん述べられていましたが、園から帰ってくる息子の口からは、嫌な思いをしたという話はあまり聞かず、何かお友達とトラブルがあっても「〇〇くんと話して、皆で笑顔になれたよ！」ということも聞かれていたので、私からはハナマルをお渡ししたいくらいです。大変お世話になりました。

●クラスクッキングでのお手伝いですが、前日あたりに打ち合わせがあるとよかったと思いました。行ってみて流れが把握できず、時間ギリギリになってしまいました。人手は４人で充分だったので、「流れ」・「食材はどのように切る」・「ここは子どもたちが料理するので、このように準備しておいてほしい」…等、細かく教えていただけると、助かると思いました。とっても楽しい行事のひとつなので、来年度はスムーズにすすめられるといいと思いました。

●コドモンアプリの中で、連絡の使い分けが出来るともう少しわかりやすくなるかもしれない。改善が出来そうだと感じた。

●園長先生・教頭先生はじめ、どの先生方や職員の方も、いつも笑顔であいさつや声をかけてくださり、その笑顔が園の明るい雰囲気や預ける時の安心感につながっています。先生方が入れ替わることや、人数が増えても、この雰囲気が変わらないでいてほしいと思います。

●次年度は参観などが保護者１名ではく、せめて２名同時に園で子どもたちの様子が見られる機会が戻ってほしいと思っています。また、コロナ禍前の昔の行事が少しずつ復活すると嬉しい。特にお泊り会を経験させたいです。